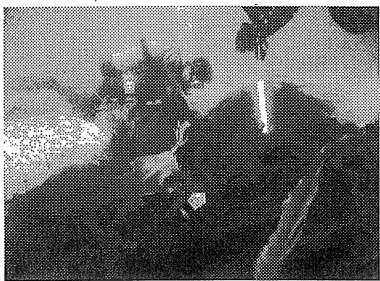


わが社の

企業価値

エコニクス

では顧客の満足度は上げられないため、多様化する顧客の環境的課題解決のニーズに因應するため、今年4月に営業部門を廃止した。同社の社員は98人。社員全員が顧客に向き合い、顧客の声を聞く機会を増やす



CSRの視点での藻場づくりに取り組んでいる

エコニクスは、前身の海洋調査会社を経て、1973年に創業した会社だ。現在は、海域の調査のみならず、陸域の動植物、生活環境測定、農水産物の機能性成分分析など広い分野にわたって北海道の環

境を見つめる事業活動を行っている。①顧客と会話を多くし、会社

②顧客との距離を縮める
③この二つを繰り返すこと
④顧客ニーズをとらえる

自然環境と人とのよりよい関係づくり

環境を見つめる事業活動を行

「環境ナビゲーション企業」を目指す

を社内にも立ち上げた。農地を耕すように、海を耕し、海藻を生や

るほど、地球の環境は悪化し、いずれ破綻していく。このような状態は、本質的には誰も望んではいない。人が豊かに暮らすためには、自然環境も豊かになければならない。このことを両立させる水先案内人になれないか、そのような願いを込めて、同社では、「環境ナビゲーション」という言葉を社のキャッチフレーズとしている。

環境の課題は多岐にわたる。事業領域が拡大するにつれて顧客から様々な課題が寄せられる。とても総花的な営業活動

民間企業が社会的責任(CSR)の二環として環境保全活動を行っているが、多くは植林な

し、環境(藻場)を再生させ、生きものの生活空間を作り、北海道の沿岸環境を過去の良好状態に近い生態系に再生する取り組みを行っている。

現在、同社では、このCSRによる藻場づくりの大切さに賛同し、協賛してもらえる企業を開拓中である。

環境の課題は多岐にわたる。事業領域が拡大するにつれて顧客から様々な課題が寄せられる。とても総花的な営業活動

民間企業が社会的責任(CSR)の二環として環境保全活動を行っているが、多くは植林な

し、環境(藻場)を再生させ、生きものの生活空間を作り、北海道の沿岸環境を過去の良好状態に近い生態系に再生する取り組みを行っている。



▽本社 札幌市厚別区下野幌テクノパーク1の2の14
代表者 伊藤聡 代表取締役社長
▽創業 1973年
▽UR L= <http://www.econix.co.jp/>